



日本安全性薬理研究会

Japanese Safety Pharmacology Society

第4回 日本安全性薬理研究会 学術年会 プログラム

< 最終版 >

(敬称略)

<1日目> 2013年2月15日(金曜日)

10:00~17:00 ポスター発表展示 <アネックス セイホクギャラリー>

10:00~10:10 開会挨拶 <弥生講堂 一条ホール>

第4回学術年会会長 千葉 克芳(第一三共)

10:10~12:00 シンポジウム1「循環器系」<弥生講堂 一条ホール>

座長: 北山 哲也(協和発酵キリン)、稲村 直樹(田辺三菱製薬)

「非臨床研究における循環器機能評価の現状と課題」

1. In vitro 試験における循環器評価の現状と課題
(エーザイ株式会社 吉永 貴志)
2. 循環器系に対するイヌを用いた薬理評価の特徴と意義
(東邦大学薬学部 薬物治療学 高原 章)
3. 心血管系疾患モデルとしてのサルの有用性
(医薬品基盤研究所 霊長類医科学研究センター 揚山 直英)
4. Current trends and issues of safety pharmacological evaluation of the cardiovascular system
in combination with general toxicity studies
(Huntingdon Life Sciences Ltd. Ken Meecham)

13:30~14:20 教育講演1「中枢基礎」<弥生講堂 一条ホール>

座長: 澤田 光平(エーザイ)

「中枢神経機能の理解と薬の作用」

(東京大学大学院薬学系研究科 薬品作用学 松木 則夫)

14:40～16:30 シンポジウム 2 「中枢神経系」 <弥生講堂 一条ホール>

座長： 安東 賢太郎 (東京大学大学院/三菱化学メディエンス)

田澁 弘行 (大日本住友製薬)

「薬物による中枢神経系副作用の検出へのアプローチ」

1. 臨床から見た中枢神経系副作用の多様性と予測性
(東京慈恵医科大学 精神医学 宮田 久嗣)
2. マウスにおける中枢神経系機能の評価方法
(藤田保健衛生大学 総合医科学研究所 システム医科学研究 宮川 剛)
3. 中枢神経系副作用予測方法としての FOB の問題点と将来展望
(ファイザー株式会社/昭和大学薬学部 堀井 郁夫)

16:50～17:50 海外招待講演 <弥生講堂 一条ホール>

座長： 山本 恵司 (武田薬品工業)、澤田 光平 (エーザイ)

1. Results from the SPS industry survey on safety pharmacology included in toxicology studies
(CIToxLAB North America Simon Authier From SPS Board of Directors)
2. Advances in safety pharmacology: Utilizing human cardiomyocytes in early stage safety pharmacological investigations
(Cellular Dynamics International Blake Anson)

18:30～ 懇親会 <山上会館本館 食堂 談話ホール>

< 2 日目 > 2013 年 2 月 16 日 (土曜日)

9:00～15:00 ポスター発表展示 <アネックス セイホクギャラリー>

質疑・応答時間：10:50～11:40

8:40～10:40 一般演題発表

<弥生講堂 一条ホール> および <農学部 1 号館教室> 並行開催

一般演題 1 8:40～9:25 <弥生講堂 一条ホール>

座長： 田澁 弘行 (大日本住友製薬)、桑野 康一 (新日本科学)

1. Fingolimod の心臓電気薬理作用：ハロセン麻酔犬モデルでの評価
(東邦大学医学部 薬理学 中村 裕二)
2. S1P 受容体修飾薬の安全性心臓薬理試験：ハロセン麻酔モルモットモデルでの評価
(東邦大学医学部 薬理学 矢來 幸弘)
3. 覚醒下イヌにおけるプロブコールの QT 間隔延長作用 -心表面心電図誘導を用いた高精度解析による QT 間隔評価- (杏林製薬株式会社 野川 央)

一般演題 2 **9:40~10:40** < 弥生講堂 一条ホール >

座長： 田保 充康 (中外製薬)、稲村 直樹 (田辺三菱製薬)

1. ヒト iPS 由来心筋細胞の性状解析および非臨床心リスク評価への応用
(エーザイ株式会社 上杉 麻依)
2. 多点電極システムを用いたヒト iPS 細胞由来心筋細胞の薬理的評価—試験プロトコールの標準化の試み (国立医薬品食品衛生研究所 大西 知子)
3. 動きベクトル解析法を用いた各種薬剤のヒト iPS 細胞由来分化心筋細胞の機能的挙動に対する影響 (武田薬品工業株式会社 岡井 佳子)
4. 動画解析を用いた神経細胞の機能評価へのアプローチ
(ソニー株式会社 中川 和博)

一般演題 3 **8:40~9:25** < 農学部 1 号館教室 >

座長： 林 誠治 (日本新薬)、金納 明宏 (薬物安全性試験センター)

1. Probucol, simvastatin, triparanol による IKs チャネルへの異なる影響
(エーザイ株式会社 谷口 智彦)
2. モルモット心房筋細胞のアセチルコリン感受性カリウム電流測定による心房細動治療薬の薬効評価 (株式会社新日本科学 松尾 純子)
3. ヒト心筋細胞数理モデルを用いた遅延性不活性化型ナトリウム電流誘発不整脈の数学的解析
(日本新薬株式会社 朝倉 圭一)

一般演題 4 **9:40~10:40** < 農学部 1 号館教室 >

座長： 金納 明宏 (薬物安全性試験センター)、本坊 敏保 (イナリサーチ)

1. ケタミンを使用しない旧世界ザルの新しい麻酔方法について
(エーザイ株式会社 竹田 三喜夫)
2. ランゲンドルフ型ウサギ灌流心を用いた心機能評価の有用性
(株式会社薬物安全性試験センター 中野 浩司)
3. イヌ及びサルを用いた心臓超音波検査法による心機能評価法の検討
—心臓カテーテル法との比較— (株式会社シミックバイオリサーチセンター 中根 史行)
4. テレメトリー法による覚醒下カニクイザルにおける心収縮力の評価に関する検討
(株式会社新日本科学 福田 光)

11:50~12:50 ランチョンセミナー < 農学部 1 号館教室 >

座長： 稲村 直樹 (田辺三菱製薬)、北山 哲也 (協和発酵キリン)

ソフィオン・バイオサイエンス AS/プライムテック主催

1. Models based on multiple ion channel effects (MICE) are more predictive of cardiac risk than hERG alone (ChanTest Corporation Jim Kramer)
- 2-1. Solid Tip リードによるイヌ心電図テレメトリー測定の検討
(協和発酵キリン株式会社 北山 哲也)

2 - 2. Solid Tip リードによるサル心電図テレメトリー測定 of 検討

(株式会社新日本科学 軸菌 竜也)

13:10～14:00 教育講演 2 「イオンチャネル」 <弥生講堂 一条ホール>

座長： 林 誠治 (日本新薬)

「チャネルの基礎・最新情報：TRP チャネルと安全性薬理」

(自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 細胞生理 富永 真琴)

14:10～15:10 シンポジウム 3 「心血管リスク評価」 <弥生講堂 一条ホール>

座長： 本坊 敏保 (イナリサーチ)、山本 恵司 (武田薬品工業)

「臨床における心血管リスク評価の現状と課題」

1. Cardiovascular safety assessment in anti-diabetic drug development programs:
Meeting the challenges associated with this paradigm shift
(Prabhaker Viswanathan, Takeda Global Research & Development Center, Inc.)
2. 薬剤性心毒性の臨床：抗ガン剤を中心に
(九州大学 健康科学センター 丸山 徹)

15:30～17:00 シンポジウム 4 「非臨床研究から臨床へ」 <弥生講堂 一条ホール>

座長： 葛西 智恵子 (アステラス製薬)

安東 賢太郎 (東京大学大学院/三菱化学メディエンス)

「安全性薬理研究の重要性と臨床への橋渡し」

1. 安全性薬理に関する臨床副作用の非臨床所見との相関性
(丸石製薬株式会社 臨床開発部/日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 王鞍 孝子)
2. 医薬品の研究開発における失敗要因
-Phase 2 attrition の分析と Translational Medicine を中心にして-
(神戸大学大学院医学研究科 統合創薬科学 樽林 陽一)
3. 安全性評価から偶然見つかった新しい薬効について
(東邦大学医学部 薬理学 杉山 篤)

17:00～ 閉会挨拶 <弥生講堂 一条ホール>

第4回学術年会会長 千葉 克芳 (第一三共)

JSPS 優秀発表賞授賞式 選考委員長 田保 充康 (中外製薬)

閉会挨拶 第5回学術年会会長 田澁 弘行 (大日本住友製薬)

以上